

1. ラナリット氏党首復帰へ、民族統一戦線

カンボジアの故シアヌーク前国王の次男ラナリット殿下(71)は、かつて率いた王党派政党、民族統一戦線に復帰することを決めた。民族統一戦線は近く開く党大会でラナリット氏を党首に選出するという。現在党首である前国王の娘の一人、アルン・ラスメイ王女らが復帰を要請。ラナリット氏は1日付の書簡で党首就任を快諾したという。2013年の下院選では、フン・セン首相の与党カンボジア人民党と野党カンボジア救国党の2党だけが議席を獲得。ラナリット氏の時代に第1党となり、人民党と連立を組むなどしてきた民族統一戦線は初めて議席なしに終わった。第1首相を務めたこともあるラナリット氏は06年に民族統一戦線の党首を事実上解任され、12年に政界を引退。だが14年に復帰して、自ら率いる新党「王党派国民政党的コミュニティ」を結成、王室支持派勢力の再結集を訴えていた。

2. キュー・サムファン:ポト派元最高幹部が入院

1/08、1970年代後半のポル・ポト政権下で起きたカンボジアの大量虐殺をめぐり、ジェノサイド(集団殺害)などの罪に問われているキュー・サムファン元国家幹部会議長(83)が、特別法廷の公判中、めまいを訴えるなどして病院に搬送された。キュー・サムファン被告は2014年8月、市民の強制移住などに絡み、同じくポト派の最高幹部だったヌオン・チア元人民代表議会議長(88)とともに人道に対する罪で終身刑判決を受け、両被告とも上訴中。キュー・サムファン被告はこの日、ジェノサイドや強制結婚などの罪に関して別途進められている裁判に出廷していた。

3. HIV 感染者が2 百人に、カンボジア西部で

カンボジア西部バタンバン州で発覚した大規模なエイズウイルス(HIV)感染で、HIV陽性と診断された人が12月28日までに200人を超えたもようだ。感染者は17日時点の106人から10日あまりで2倍に膨らんだ。HIVへの感染者が増えているのはバタンバン州にあるロカ村。ソエウム・クホム副町長によると、村内の保健所で行われた検査で陽性と診断された人が相次ぎ、同州での感染者数が201人になった。25日以降には、タイから帰国した20人のうち17人が陽性と診断された。バタンバン州でのHIVへの感染は、注射針や注射器の使い回しが原因の可能性があるとされ、現地で医師免許を持たずに医療行為を行っていた男性の行方が分からなくなっている。副町長によれば、タイからの帰国者はいずれも、この男性による治療を受けた。同州ではこれまでに、3つの村でHIVの感染者が見つかった。11月下旬に村の老人2人の感染が確認されたのを皮切りに、検査を受ける人が相次いだ。この2人を含む895人が17日までに検査を受け、計106人が陽性と診断されていた。

4. カンボジア人若者グループ、韓国:ソウルでのデモ活動を企画

韓国にいるカンボジア人活動家たちが、12月10日におこなわれるフン・セン首相参加の5日間サミットの開催に合わせ、日曜日からデモ活動を行うことを予定している。活動の企画者によると、デモではおよそ1500人の反対勢力がソウルにて集結し、現在拘留されているカンボジア救国党のMeach Soovannara氏を即刻解放しろと声を上げる予定であるとのこと。「Sovannara氏は、韓国に暮らすカンボジア人に、若者主体のグループを結成させた人物です。韓国のカンボジア人は、彼をヒーローのように思っています」と救国党と結託する団体Youth Movement代表Yin Sinoen氏は話す。しかしカンボジア外交官Suth Dina氏は、「国際的な注目が集まるなかでカンボジア首相に恥をかかせることは許されない。韓国政府も、ソウルにカンボジア人が集まって、そういう活動を行うことを、絶対に認めやしないだろう。以前は、認められたデモ活動もありました。しかし今回は違います。韓国は、フン・セン首相を特別ゲストとして迎えるのですから、彼を守る意思があるはずですよ」と話す。

5. ANA がカンボジアに直行便か

Australian-based Centre for Aviation (CAPA)の発表によると、日系航空会社のAll Nippon Airways (ANA)が、カンボジアでの事業を視野に入れていることがわかった。ANAが自社の14%を占める日本、東南アジア間のルートをより強力にしようとしている。ANAのCEOであるShinobe Osamu氏は、先週の東京在住のAssociation of Asia Pacific Airlines(AAPA)メンバーで行われた集まりの中で、CAPAに対して、カンボジアとマレーシアでの事業を視野に入れていると話した。新規直行便ルートとして、クアラルンプールとシエムリアップが候補にあがっている。「ANAはこの2年間、東南アジアでの事業拡大をずっと考えていたようです。東南アジアは、急成長しているマーケットのひとつですから」とCAPAは見ている。現在、ANAは、バンコクとホーチミン、ジャカルタ、マニラ、シンガポール、ヤンゴンに直行便を飛ばしている。

6. 縫製工場でストライキ 2個所で合計 2000 人近い労働者が参加

12/21、解雇された労働組合員の復職や、妊婦への手当給付などをめぐる 2000 人規模のストライキが、プノンペンの Kandal 地区にある工場 2 箇所において行われた。Workers Friendship Union Federation 代表の Sem Sambath 氏によると、およそ 1600 人の労働者が、Kandal の Ang Snoul 地区にある Now Corp 縫製工場で行ったようだ。Garment Manufacturers Association in Cambodian(GMAC)のウェブサイトによると、Now Corp 工場に働いている労働者の数は 1600 人と把握されており、大半の労働者がストライキに参加したと思われる。交通費や家賃に月 15 ドルと、食費に月 26 ドルの支給、妊婦の労働者には規定の就業時間を 15 分短くすることなどが、労働者達の求めるところだ。ポスト紙の電話での取材に応じた Now Corp 社の女性職員は、「私たちはストライキのことについては知りません。また、工場のトップマネージャーは、取材に応じることはできません」と話した。ストライキが継続することによって、警察との衝突があるのでは、と Sambath 氏は心配する。

また、労働者およそ 100 人による小規模ストライキも、プノンペン市内の UDS 縫製工場でおこなわれた。「Free Trade Union(FTU)に所属する 3 人の労働者が工場から解雇されたことに対して労働者達は怒りを表していた」と、FTU の法務部、Ry Sithinet 氏は話した。「UDS 工場は、FTU のメンバーである 3 人を、理由を明確にしないまま解雇しました」と、Sithinet 氏は話す。GMAC によると、UDS 工場ではおよそ 255 人が雇われている。また労働者たちは、「FTU 3 人の復職とともに、1 日 1 ドルの食費支給と、来年の賃上げ後には労働者全員が間違いなく月 28 ドルの賃上げを受けられるように」といった内容の要求もしている。FTU が要求をまとめた文書を労務省に送る手続きをしている間は、労働者達も仕事に戻ることに同意している。

7. 解雇された労働者達、裁判所の助けにより復職

Chbar Ampov 地区にある Huey Chuen 工場では、解雇されていた何百人もの労働者が、再び復職を認められることとなった。プノンペン裁判所が経営者側に、彼らを復職させるよう命令を出した。National Trade Union Confederation 代表の Fa Saly 氏によると、工場では今年 9 月に 1000 人もの労働者が解雇されており、うち 80%近い人数が戻ってきたと推定されるとのこと。労働者達は、賃上げを求めるストライキに参加したのち、工場から解雇され途方にくれていた。「裁判所が私達のサポートをしてくれたことを、大変ありがたく思っています。でも、もし労働者達の要求が一向に満たされないままであれば、またストライキを繰り返すでしょう」と Saly 氏は話す。

8. 原産地証明オンライン化

カンボジア商務省は、12/04、国内の縫製工場に対して最終通告となる声明を出した。それは「今年度末までに自動原産地証明書システムに登録するように」という内容で、「もし年度末までに登録がすまなかった場合は、証明書の発行はすぐにはできない」という記載もあった。「2015 年 1 月から商務省は、原産地証明書の発行について、オンラインシステムに登録している会社のみ優先的に発行を進めていく」という。さらに「商務省は、オンラインシステムに登録していない会社については、証明書発行のいかなる遅れについても責任を取ることはできない。既存の正式な手順で手続きをしたとしても、それは変わらない」とも記されている。

原産地証明書は製品の生産元を証明するもので、輸出先となる多くの国では必ず必要とされる。証明書の取得手続きをオンライン化する目的としては、省庁で手続きを行うとき、たびたび用いられる賄賂をなくすためであるという。5 月以降、462 の縫製工場、靴工場が自動原産地証明書発行システムに登録しており、1 万 7 千以上の証明書が発行されている。Garment Manufacturers Association in Cambodia のシニアオフィサー Cheat Khenara 氏は、「私の組織に加入しているメンバーには、このシステムを利用するよう伝えました。時間を節約できますし、賄賂も減らすことができます。これはビジネスを活性化させる良い手法だと思います」と話した。

9. 倉庫で火災発生、電気系統の故障が原因

プノンペンの Meanchey 地区にある Chin mei Yong 縫製工場で、倉庫で起こった電気系統の誤作動により、12/09 の朝火災が発生した。プノンペン消防署署長の Saom Som Ath 氏の話によると、出火原因となった電気コンセントは、破棄予定の生地、衣料が入った箱のそばにあり、その箱に引火したという。「怪我人も死者も出ず、大きな火事にはなりませんでしたが」と Som Ath 氏は、消火活動を終えた現場で話をした。「火災が発生した倉庫は、出荷できない品質の衣料品を箱詰めしてストックしている場所でした。我々は、朝 9 時 20 分に火災の通報を受けて、10 時 25 分までには、消防団はすでに消火を完了させました。今回の火事の原因は、敷地内の安全性を完全に配慮できていなかった工場に責任があります」と話をした。

10. 日系リサイクル、カンボジア出店

総合リサイクルショップのベストバイ(大阪府東大阪市)はこのほど、プノンペンに海外1号店となる「ジャパン・クオリティ・ショップ良品買館」を開店したと発表した。全額出資する現地法人を通じ、昨年12月11日に営業を開始している。店舗面積は1,200平方メートルで、東南アジアのリサイクルショップとして最大級。雑貨、家具・衣類など6万店の商品を揃え、幅広い選択肢を提供するという。

11. プノンペンにドミノ・ピザ、月内にもオープン

カンボジアに今年、世界的なファストフードチェーンの「ドミノ・ピザ」が進出する。タイで「ドミノ・ピザ」のチェーン運営を手掛けるエボリューション・キャピタルがカンボジア企業と提携、月内にもプノンペンに1号店をオープンする。両社は150万米ドル(約1億8,000万円)を投じ、年内に市内で3店を新たに開設するという。

12. タイ食品ベタグロ、カンボジア・ラオスで事業拡大

タイの食品大手ベタグロ・グループが、カンボジアとラオスで事業拡大を目指す方針を打ち出した。14年度の業績発表の席上で明らかにしたもので、両国で飼料工場を稼働させるなどして存在感を高める。カンボジアでは月間2万4,000トンの生産能力を持つ飼料工場を建設しているところで、年央にも生産を始める。具体的な時期は明らかにしていないが、ラオスにも飼料の製造基地を設ける。ラオスではまた、昨年始めた小売・卸売事業の拡大も図っていく。

以上